

『 ロータリーワンポイント情報 』

ロータリー情報委員会 石塚茂樹 委員長

前回、雑誌月間について話しましたが、続いて6月は親睦活動月間になります。詳しくは親睦家族委員会の方で、事業をやられると思いますので、表面的な事だけ話させていただきます。

ロータリー親睦活動は、国際奉仕の一部門です。現在、100近い親睦グループがあり、趣味や職業活動を通じて、国際親善と奉仕に貢献しています。ガバナーは、地区に地区親睦活動委員会を設置する様に、奨励されております。より多くのロータリアンが親睦活動に参加する事を奨励する為に、この月間が設けられております。クラブとしては、親睦活動のイベントをずっとやってきております事ですので、今後の事業活動に期待して、終わります。

『 新入会員卓話 』

2009年5月27日入会 迫田 武 会員

諸先輩を前にして、何を話そうか一所懸命考えてきましたので、今日は宜しく願いいたします。3つの点について話をさせていただきます。

私が北海道へ帰ってくる前に、ヨーロッパを3カ月間、一人旅をしていた事があります。俗に言うバックパッカーという貧乏旅行でありました。学生時代からの夢でしたから、じっくり計画を立てて旅する予定でしたが、全勤務先の退職が大幅に遅れ旅行準備が出来ないまま、航空券、パスポート、ガイドブックをもって飛行機に飛び乗ったのが実際のところでした。そんな中で2つほど決め事を作りました、一つは開き直りまして、自分の感性のまま、趣くままに行動しよう、もう一つは自分の許せる範囲内の貧乏旅行をする。

旅の恥はかき捨てで、柄にもなくミュージカルやオペラを見たり、ヨーロッパの地図を広げるとアフリカが近いので、アフリカへ渡ってみたり、絵葉書の場所を探して適当に歩いてみました。

お金を浮かす為に、都市間の移動は夜行列車を使い、2等席を利用して良かった事は、地元の若い人からお年寄りまで、そして他国のバックパッカーとも触れ合う事が出来ました。その時の日本や日本人がどの様に思われているのか、知ることも出来ましたし、日本の政治や歴史、文化など良く知っていました。

危ない目にも遭ったし、危険な地域とも知らずに足を踏み入れたりもしましたが、何よりも人に助けられ、優しさに触れたり、親切にされたりと、良い思い出が沢山あります。行く先々の国々によって感じる事が様々で、文化の違いなどカルチャーショックを受けたことは、それらの経験が今の自分に大きな影響を与えられ、受けていると思います。

次に、自分の専門職、仕事について話をさせていただきます。

本来であれば、親の会社を継いでいるので経営者と言わなければいけないのですが、自己紹介では、「設計屋あがり」と紹介しています。

自分は、設計及び建築が好きであり、いまだに住宅建築では、お客様と打ち合わせをしたり、設計図面を書いたり、役所に申請書を提出しております。

自分に言い聞かせている事は、住宅は私たちにとっては、年間何棟かの、もしくは今までにやった住宅の一つかも知れませんが、御施主様にとっては、一生に一度のメインイベントであり、御施主様の大事な財産作りのお手伝いをする気持ちで、プロとして出来る限りの多くの手間暇をかけて、知識や経験を生かして仕事に取り組みなければならないとの、常日頃からの思いであります。と言っても設計の仕事は緻密な部分があり、仕事に行き詰まったりした時、心が折れそうになった時など、今まで行って来たことを思い出しながら、努力しているのが現状であります。

その他にも、弊社は土木工事をやらせて頂いております。

土木職員から以前、建築屋はいいナアと言われました、どうしてかと聞けば、建築物件は誰が設計した、誰が作ったなどみんなの話題になりやすく、興味を持ってもらえる、そして最後はお客様へお互い笑顔でのお引渡しが出来て終わります。

その点、土木工事は道路を路盤改良したとか、下水道管を入れたり、護岸の整備などしても、誰も興味を示してくれません。引渡しの際は、ほとんど役所仕事ですから、役人の怖い顔で注意を受けながら引渡しをする、笑顔なんか見たことなどない。だから建築屋は恵まれいい職業だと言っている。

私も設計事務所にいた時、お客様と仲良くして頂き、お客様の夢を叶えている気持ちでおりました、その時先輩から、建築は良く出来て当たり前、不都合が起きるとクレームになる、クレームになったら直せばよい。ただ、他人には分からなくても、作った本人がその建物の良いところ、悪いところを一番知っており、建物を見る度に感じております。

だから、自分たちは妥協せず、考え、悩みながら、これからも建物を作っていかなければなりません。

建築構造設計偽装について、設計者や施工者は偽装することで、どういう状況になるのか良く分かっていますから、台風や地震のときは夜も眠れないくらい心配だと思います。あのようにテレビに出る人はごくごく稀な人達で、良識ある大多数のゼネコンや工務店などの関係者の人達は、真摯に取り組んでいる事をお知らせして終わります。

最後に、今まで色んな方に出会い、また、このクラブに参加させて頂きまして、自分を切磋琢磨して参りたいと思いますので、今後ともご指導、ご鞭撻を宜しくお願い致します。

『 提 案 』

本間 明美 副幹事

前回の「雑誌月間」で、高橋研修副委員長も触れられていた「ロータリーの友」の活用について、私なりに考えてみました。

7月から「友」に新コーナーが出来るとの事です、クラブバナー紹介コーナーで、各クラブの紹介やバナーの由来を50～100字で紹介します。担当委員会や会長幹事の了解を得て調べておりますが、北クラブのバナー自体は二代目であり、製作に当たっての資料が見つからず困っていましたが、先日完成しお渡した50周年記念誌の中に、素晴らしい文章を見つけましたので参考にしながら、こんな紹介文を作ってみました。

「湿原の風とともに、太古の遺産、釧路湿原の緑を背景に、母なる釧路川と、優雅に舞う丹頂鶴をあしらってみました。」

もう少し膨らませたいと思いますので、紹介文、由来文がありましたら、教えて頂きたいと思います。この様に投稿して、購読側から参加側へ変えて、「友」をめぐる事が楽しくなる事を期待致します。